

ひまひま データ

数字で遊ぶ
ボートレース

スピードクイーンメモリアルの新設によって女子選手の上がりタイムは速くなったのでしょうか

前回は3周タイムを選択に取り入れたPGIスピードクイーンメモリアル(SQM)の集計について書きました。この新GIにより、女子選手の3周タイムが速くなったかどうかを集計しようとしたのですが、うまくいきませんでした。これを1着時の2着とのタイム差を調べることで判明するかもとの話をいただきました。

女子選手が1着になった時、2着を引きちぎってゴールする——そんなタイム差の年別の平均値を出し、今年、急にタイム差が開いて(大きくなって)いれば、このSQMの影響と言えるかもしれせん。

●年別のタイム差

まず1着と2着のタイム差の平均値はどのくらいでしょうか。96年以降の平均値は1・53秒でした。スタートする時は6艇が0・2秒くらいの間に揃っていますが、ゴール時には1着から2着までで1・5秒も差がついているということなのです。なお事故レースを含めると正確な数値にならないため、今回は「3周レース&6艇ゴール」のみを集計しました。

グラフ1は「3周レース&6艇ゴール」を年別で集計したものです。青い線が1着のタイム差の変遷です。96年〜01年は1・65秒前後のタイム差がありました。逆に2着〜3着は1・35秒差。当時は1着が2着を大きく引き離していました。私の予想ですが、モンキーターンの影響もあったのでしょうか。そういえばモンキーターンをする選手としない

選手に分かれていたのはいつ頃までだったのでしょうか。

それが05年頃には1着と2着と3着のタイム差はそれぞれほぼ同じになります。そして今では、1着と2着のタイム差は1・40秒まで来ています。2着が1着に迫っている感じでしょうか。

さて、いよいよ本題の女子選手の変化です。赤い線は、「女子選手が1着の時の2着とのタイム差」の変遷です。どうでしょう、去年(23年)は1・47秒、今年(24年)は1・48秒。SQMはできましたが女子選手全体では変わっていないようです。どの女子選手も、1着になったら2番手の選手を引き離す! ということではなかったのかもしれませんが。特定の選手に限れば何らかの変化はあったかも?

さてグラフに戻って、女子選手も青い線と同じように変化してきました。ペラ基準が変わった頃の05年・06年は1・37秒差まで縮みましたが、その後は徐々に差が広がり、21年・22年は1・51秒に(全選手平均は1・42秒)。女子選手は男子と比べて、2着選手との差が少しずつではあります。大きく広がってきているようです。

はつきりとはわかりませんが、最低体重が変わったことも関係あるのでしょうか。03年5月から女子は45kg↓47kg(男子との差5kg↓3kg)、15年11月から男子は50kg↓51kg(同4kg)、20年11月から男子は51kg↓52kg(同5kg)。

96年当時、6艇ゴールのレースは1着と2着が1・65秒差に対して、失

格ありは1・82秒差。失格艇があったとしてもほぼ変わらず普通にレースをしていたことがわかります。しなくてはいけなかったのではないのでしょうか。今では2・68秒です。間隔が開いてもそれ以上に事故艇を増やすことなく安全にレースを終えることが徹底された結果がこのグラフでもわかります。

これらのグラフから、青色の1着と2着のタイム差が今とほぼ同じ水準のまま十分なラインになる06年以降で集計することにしました。

●選手別、1着時の2着とのタイム差平均ランキング

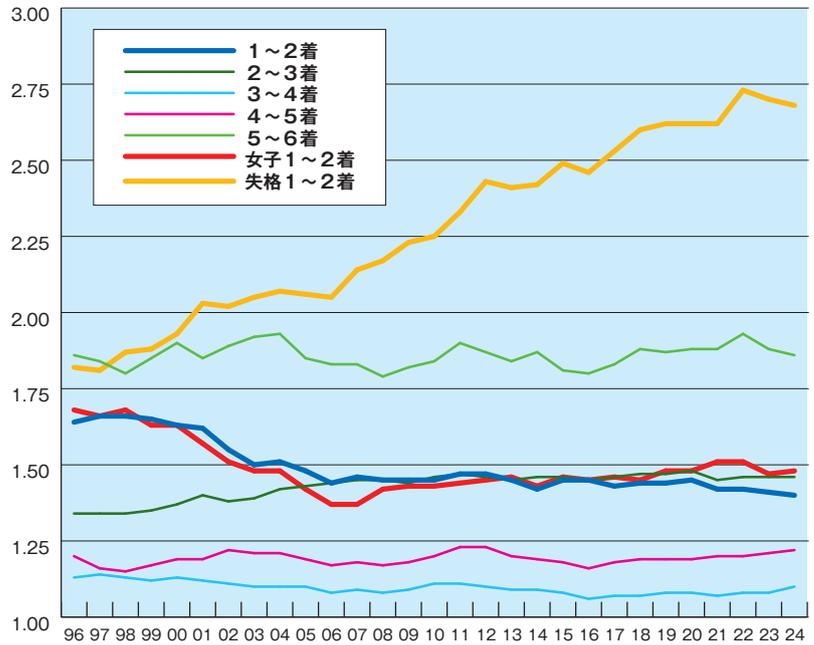
「1着時の2着とのタイム差」を年別や6艇ゴールや失格ありなどで分けて集計してきましたが、選手別で集計するとどうなるのでしょうか。先ほどまでの結果から条件を「06年以降で3周・6艇ゴールのみのレース」での集計とし、1着時の2着選手とのタイム差平均を出してみました。1着になった時、2着の選手をどれだけ離しているかという意味になります。対象となった1着回数50回以上としました(表1)。

なんと上位15のうち9人が女子選手!! とりあえず男子を含めた全選手でランキングを作ってみて、あとから女子のみのランキングを作ろうとしたのですが…。SQM選考終了日まであと数日という状況で書いて驚きました。ほとんどが現時点のSQMの各場1位の選手! 5場で1位となっている浜田亜理沙選手はもちろん、芦屋と常滑で1位の上

表1 ●06年以降、1着時の2着とのタイム差平均ランキング
(3周かつ6艇ゴールレースのみ)

順位	登番	選手名	対象1着数	2着とのタイム差	SQM場1位
1位	3996	秋山 直之	1303	2.368	
2位	5057	上田 紗奈	136	2.255	芦・常
3位	5224	西岡 顕心	52	2.221	
4位	4936	戸敷 晃美	120	2.163	若
5位	4546	浜田亜理沙	542	2.096	尼・蒲・宮・津・平
6位	4556	竹井 奈美	683	2.087	多
7位	4604	岩瀬 裕亮	862	2.082	
8位	4590	渡邊 優美	621	2.078	下
9位	3903	白石 健	1317	2.073	
10位	4900	中田 夕貴	236	2.073	(尼の次点)
11位	3297	藤丸 光一	1180	2.065	
12位	4901	出口舞有子	197	2.055	
13位	5205	刑部亜里紗	76	2.043	唐
14位	5058	前原 大道	166	2.039	
15位	4961	西橋 奈未	330	2.035	鳴
16位	4524	深谷 知博	1076	2.031	
17位	4448	青木 玄太	820	2.031	
18位	4367	山口 修路	361	2.031	
19位	4397	西村 拓也	1237	2.029	
20位	4746	大豆生田蒼	274	2.023	(津の次点)

グラフ1 ●年別、各着順間のタイム差の変遷



田紗奈選手などSQMに出場しそうな選手が上位を占めていました！中田夕貴選手と大豆生田蒼選手はそれぞれ尼崎と津の次点に構えています。SQMはこのランキング上位に入るような女子選手のための開催といえるのかもしれませんが。

さて上位を見ていきましょう。秋山直之選手が2・368秒で堂々の1位！この集計の全選手平均は1・44秒ですから、平均より1秒も差をつけてゴールしています。私には予想外で、追い上げで有名な秋山直之選手は、このランキングでは下位の方だと思っていました。なぜなら追い上げて1着になった場合、2着との差はほとんどないようなイメージがあり、秋山選手が1着のときは2着との差はあまりないと思っていました。ということはですよ、秋山選手は3番手や2番手や先頭の選手を追い上げるだけではなく、先頭を走っているときも見えないその前の選手（0着の選手？）を追って走っているともいえるのでしょうか！

いや、2番手3番手を走っているときも、その見えない選手に追いつこうと走っているのでしょうか？とにかく面白い結果が出てきました。

2位には上田紗奈選手。SQMでは芦屋と常滑の1位になっており、タイム上位の芦屋で選出予定。このままSQMはほぼ確実でしょう。2・255秒も秋山選手に迫る驚異的な数字かもしれません。20年以降の年別は、2・31秒↓2・22秒↓2・40秒。上田選手はもともと2着を引きちぎってのレースをする素性がある

のかもしれませんが。

3位はまだ対象の1着が52回しかありませんが、129期の西岡顕心選手。デビュー6期目、来期（25年前期）からA2級経験なくA1級へ飛び級となり、1月に江戸川周年でGIデビューも決まりました。

4位から6位には女子選手、11月の若松ではそれまでSQM若松1位だった武井莉里佳選手の1分48秒9を超えるタイムを連発。このランキングは06年以降の引退選手も含めた全選手によるものですからその中の4位の選手がこうして記録を出すことは必然だったのかもしれませんが。そして昨年のクイーンズC覇者の浜田亜理沙選手はSQMで現在5場で1位となっています。何度も書きますがこのランキングは06年以降の記録。去年QCで優勝したからということではなく、もともと持っていたものが花開いたということかもしれません。

気になる選手が一人います。7位の岩瀬裕亮選手です。岩瀬選手は、デビュー前に養成所で同所のコースレコードを更新したと大騒ぎになったことを覚えています。でもデビューして以降は3周タイムで大きな記録を残すということはありませんでした。でも今やっとこのランキングでわかりました。その養成所からの精神は2着とのタイムを引き離すというところで生きています。